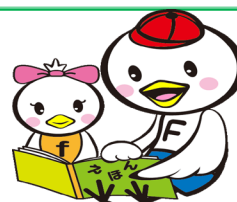


福岡市教育センター研修講座 「読書活動」



8月23日、全校種（小学校、中学校、特別支援学校、高等学校）の先生方が参加した福岡市教育センターの研修会が、総合図書館にて行われました。研修内容は、佐賀女子短期大学名誉教授の白根恵子先生を講師としてお迎えして「子どもが読書に親しむ態度を育て、読書習慣を形成する読書活動」のあり方という内容のものでした。研修会に参加された先生方は、熱心に、講師の白根先生のお話を聞かれています。

研修は、講師のブックトークから始まり、

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 子どもの読書に関するできごと | 2. 1冊の本との出会いがもたらすもの |
| 3. 読書が育てる力 | 4. 本離れてほんとかな |
| 5. 読まない理由、読めない理由を考える | 6. 読書力を育てる |

という6つのお話で構成されていました。

その中で、白根先生は、「子どもの本離れは、子どもの課題なのか。」「本来、子どもは本が好きである。大人の仕事として、子どもの読む意欲を高めることと、子どもの読む技術を育てることが大切である。」と話されていました。そして、子どもの読む意欲を高めるために、大人が、

- | | |
|--------------------|--------------|
| ○ 適書（時期と内容）を手渡そう | ○ 本の面白さを手渡そう |
| ○ 最適の方法で手渡そう | ○ 心をこめて手渡そう |
| ○ 子ども同士の本の紹介の場を作ろう | |

といったことを行っていかなければならない。

そして、子どもの読む技術を育てるために、アニメーションなどを通して楽しみながら読書力を養うことの大切さや、絵本以外の本の読み聞かせやストーリーテリングを積極的に行い、言葉から想像する力を養うことの大切さをお話くださいました。

そのほか、読書は、

○ 自尊感情を高める ○ 人生の道しるべ ○ メタ思考（客観性）を育てる
など、たくさんの言葉をご教授していただきました。

アニメーションとは・・・

子どもの読む力の発達段階に沿って、遊びの要素を取り入れながら読書体験を積み重ね読書力を育てる手法の呼び方。アニメ（ラテン語の魂・生命の意味を表す）を活性化させ、人を元気にするという意味を持ちます。

メタ思考とは・・・

物事や問題を俯瞰的に、（上から見下ろすように客観的に）考えていく思考法を指します。メタ思考を身に付けることができれば、自分を客観的に見ることができるようになり、より物事の本質を見定められるようになります。もう一人の自分が自分を観察するように、外から自分をみたりして、違う考え方や新たな「気づき」をみだし、物事をより本質的に考える思考法です。

令和5年度 「読書週間」に向けて

「今年の標語」

～ 私のペースで しおりは進む～

今年で77回目を迎える「読書週間」は、毎年「10月27日 読書の日」を初日として、11月9日までの2週間となっています。

「読書週間」は、1947年に日本で初まった週間です。1945年の太平洋戦争から2年後、戦争の傷跡が各地に残っていた当時の日本を「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」という決意をもとに開催されたそうです。

それから77年、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。

しかしながら、近年、メディア機器の発達や普及により、子ども達の「読書離れ」が心配されています。5月の「子ども読書週間」と共に、今年の「読書週間」も、多くの子ども達の読書への関心を高めたり、読書習慣の定着の機会となったりする催しや働きかけを学校や家庭、地域において行って欲しいものです。

各学校におかれましては、来月の読書週間に向けて、図書委員会等の子ども達と共に、計画や準備をお願いします。

あと1週間で、10月です。夏の暑さも和らぎ、朝晩には秋の気配も感じるようになりました。秋は、「芸術の秋」「スポーツの秋」、そして「読書の秋」。暑さで過ごしにくかった夏も終わり、気温も下がり活動しやすい時期となっていきます。また秋は、気候のおかげで、やる気も起こりやすく、集中力も持続しやすくなります。さらに、秋は、夜が長く一人静かに過ごせる時間も増えます。

秋の夜長、読書に取り組んでみたいものですね。

<須藤>



10月のことと人

10.5 世界教師デー

1966年 教師への支援と、子ども達に、十分な教育を施せるよう求めることを目的として「教師の地位向上に関する勧告」に調印された日。国際連合教育科学文化機関（UNESCO）が1994年（平成6年）に制定。

10.17 貧困撲滅のための国際デー

多くの国で「極貧に打ち克つための世界デー」となっていたことから、国連総会で「貧困撲滅のための国際デー」とすることが宣言された。貧困の撲滅を目指し、人権と尊厳の尊重を呼びかける日である。国連事務総長よりメッセージが発信される。

ルース・エインズワース

(1908.10.16~1984.5.16)

イギリス生まれ。双子をふくむ3人の息子を育てながら、子どものための詩やお話を数多く発表した。その作品は、イギリスの人気ラジオ番組“Listen With Mother”で親しまれた。代表作「こすずめのぼうけん」。

馬場 のぼる (1927.10.18~2001.4.7)

青森県三戸市に生まれる。日本の漫画家・絵本作家。手塚治虫・福井英一とともに「児童漫画界の三羽ガラス」と呼ばれた。新聞の連載4コマ漫画『バクさん』、絵本『11ぴきのねこ』シリーズ等が代表作となった。

いもと ようこ (1944.10.20~)

兵庫県三木市生まれ。金沢美術工芸大学油絵科卒業。小学校教員を経て絵本の世界に入る。ちぎった和紙の貼り絵に着色する技法によって、やわらかで暖かな表情の人物や動物、植物などを描く。出版された絵本は400冊以上となる。

灰谷 健次郎 (1934.10.31~2006.11.23)

兵庫県神戸市生まれ。小学校に務める傍ら児童詩誌『きりん』の編集に携わる。17年間勤めた学校を退職し、各地を放浪。デビュー作『兔の眼』はミリオンセラーとなる。二作目『太陽の子』も50万部を超える。

図書館員のひみつの本棚 第 209 回

今日は、楽しく気軽に読める詩集をご紹介します。

『しゃべる詩あそび詩きこえる詩』

はせ みつこ／編 飯野 和好／絵 富山房 1995 年 ¥2200(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年★☆☆ 小中学年★★★ 小高学年★★☆ 中学生★☆☆

高校★☆☆ 一般★☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

言葉遊びのような楽しい詩から、思わずくすりと笑ってしまうような詩、静かに心に残る詩など、さまざまな詩が載っています。北原白秋、室生犀星、与謝野晶子といった往年の詩人から、まどみちお、谷川俊太郎、工藤直子などの現代作家まで、幅広い作者の詩が全部で57作品。すべてに独特でにぎやかな挿絵もたっぷりついており、見るだけでも楽しい詩集です。

詩ってこんなに自由でいいんだ、と改めて思わせてくれます。

<子どもに手渡す時のポイント>

まずはどれか1つ声に出して読んでみてあげてください。きっと子ども達は惹きつけられると思います。そこから1人で読むもよし、一緒に声に出して読むもよし、いろいろな楽しみ方ができます。

また、子どもが気に入った詩があれば、その作者の他の詩集へ誘ってもいいでしょうし、シリーズとして『みえる詩あそび詩きこえる詩』、『おどる詩あそび詩きこえる詩』も刊行されているので、続けてそちらを読んでみるのもよいのではないのでしょうか。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。